

高林白牛口二の謡を聴く会

対談

第一部

第二部

小原御幸

高林白牛口二

半蔀

高林呻二

花月

高林白牛口二
大村華由

難波

高林昌司

主催 高吟会

リチャード・エマート

高林白牛口二

令和元年 6月28日(金) 午後6時始 十四世喜多六平太記念能楽堂(喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席) ¥4,000均一

※当日、小原御幸の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail : koginkai@ares.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL : 075-462-1490 FAX : 075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL : 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分

第八十二回 喜多流涌泉能

令和元年六月二十八日(金)
午後五時十五分開場

動静以天地
視哉涌泉美
鉦之翁

第一部 午後六時始

対談

リチャード・エマート
高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟
小原御幸

高林白牛口二

仕舞
半 蔀

高林 呻二

独調
花 月

高林白牛口二
大村 華由

仕舞
難 波

高林 昌司

終了予定 午後八時四十分

主催 喜多流 高吟会

催花賞受賞 感謝の辞 高林白牛口二

催花賞を私にと云う連絡の電話は、呻二が受けました。呻二から連絡を受けた私は、選定された理由は何だろうと思いました。正式な選定の通知が来て、特に謡を取り上げられたと云う事に、驚きと共に、成る程という納得をも感じました。

今の私が、特に謡に心を注いで居る礎になつて居る理由に、お二人の方の存在があります。一人は、熊本の狩野瑠璃さんです。狩野さんは私より、年齢が一歳若い方でした。喜多実先生と父との和解の話し合いになった日に、練馬の稽古場で、狩野さんの能の稽古がありました。曲は阿漕だったと聞いています。父がその時に、地謡を謡ったのです。その父の謡を狩野さんが聴いて、昔の熊本や九州の方々が謡っていた「美しい謡」と同じだ、と思ったのだそうです。父の謡った「美しい謡」が、四十五年経った今も、消えずに昨日のように耳に残っている。そして私が、それと同じ謡を謡っている、と云って呉れました。いつかこの話を私にしなければならぬと、ずっと思っていた、と彼は私に云いました。この直後に、彼は亡くなりました。この狩野さんの言葉は、彼から私への最後の言葉となりました。狩野さんはその最期に於いて、私の謡う謡の正しさを証明して呉れました。

もう一人は喜多実先生です。除名が解けて、実先生が拙宅の稽古舞台で「西行桜」の袴能を舞われました。その地謡を、父と私の二人で謡ったのです。終わつた後の座談の席で、実先生は父に向かって「吟ちゃん、君は謡を作り上げたね。」と言われました。そして「その謡を今の喜多流の者に教えて呉れ」と仰有いました。しかし残念な事に、その三ヶ月後に父は脳出血で倒れ、約一年後にこの世を去りました。私はこの実先生と父との約束を、現在も相続しています。けれども実先生が亡くなられた現状では、私から喜多流の者に教えることは出来ません。それでせめてもの事に「謡を聴く会」を始め、心ある者や関心のある方々に、聴いて頂く事にしました。

私は「謡は声楽である」と云う事を、常に念頭に置いています。これは、喜多流の伝書の一つである悪魔私の中にも、説かれて居る言葉です。声楽とは謡っている詞が、聴いている方々に、直裁的に聞き取れることが、第一の必須条件です。

私の父は、私に様々な事を教えて呉れました。その教えの中で、一度始めたら二十回は続ける、と云っていました。親子で始めた喜多流涌泉能は、「謡を聴く会」を含めて、去年の内に八十回を超えました。父の論で云いますと、四巡を重ねたことになりました。しかし「謡を聴く会」は、まだ始めたばかりです。京都の涌泉能を含めて、まだ七番しか謡っていません。これが二十番になるまでは、寿命が尽きないように健康に留意して、これを全うすることが、この催花賞を頂いた事に対する、恩返しでもあると思っています。

秋期予告

令和元年十一月九日(土) 午後一時始

第八十三回 涌泉能 於 京都 大江能楽堂

仕舞 山 姥 高林 呻二

一曲独吟 鬼界島 高林白牛口二

能 龍 田 高林 昌司

令和元年十一月二十九日(金) 午後七時始

第八十四回 涌泉能 於 東京 喜多能楽堂

(第八回 高林白牛口二の謡を聴く会)

一曲独吟 砧 高林白牛口二 他

午後六時より第一部として対談を予定しています。